



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺

No. 17

第17回 新潟県作業療法学会 開催報告

学会運営委員会

委員長 平澤利博

10月16日、第17回新潟県作業療法学会が開催されました。

新型コロナウイルスの流行に伴い、今年度は新潟県作業療法学会もWeb開催の形で行われました。初のWeb開催にも関わらず、参加者数189名と多くの方にご参加いただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

今年度の学会テーマは、「作業療法実践における評価技術と成果指標」でした。皆様は普段の臨床業務において、評価や効果判定はどのように行われていますか？心身機能や活動と参加の改善、在宅退院の達成、大切な作業への従事等、その時の状況と目的によって様々な方法や視点で評価・効果判定を行うかと思います。その中で、どのような成果が得られたのかを明確に示していくことが、作業療法の専門性やエビデンスの構築に繋がっていきます。

今学会の講演・セミナーは、普段の作業療法実践における評価や効果判定の参考となるエッセンスを多く取り入れた内容を企画しました。学会に参加して得られた内容を活かし、参加者の皆様の作業療法実践がより良いものとなり、目の前のクライアントや対象者の方々に還元できれば幸いです。

演題発表においては一般演題セッションに加えて、発表未経験者を対象としたビギナーズセッションを設けました。ビギナー発表者の方々は、当日得られたアドバイスを糧に、次の実践報告や学会発表等のステップアップに繋げてみてはいかがでしょうか？また、演題発表者の方々においても、今後の研究発展に繋がる可能性を秘めた内容が多く見受けられました。研究への発展を経て、更なる作業療法のエビデンス構築に繋げていただければ幸いです。

最後になりますが、ご多忙の中、今学会の講師・座長を引き受けて下さった先生方、参加して下さった多くの作業療法士や他職種・学生の方々、そして、何度も会議やデモンストレーションを重ね、学会本番の運営に携わって下さった学会運営委員会の皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。

渉外活動について

新潟県作業療法士会 会長 四方 秀 人

会員の皆様に士会活動としての渉外活動を説明したいと思います。そもそも渉外活動とは外部と連携して交渉を行う一連の活動を指します。つまり、OT士会とは別の団体や行政機関、個人等と交流を図り、士会にとって利益を生み出す種を撒く活動だと言えます。

以前は、理学療法士会や言語聴覚士会との専門職交流が主で、行政機関や他団体、ましてや国会議員、県議会議員との渉外活動は控えめだった印象です。

近年、地域共生社会実現の為に多くの法改正が行なわれ地域活動が活発化してきていることもあり渉外活動、特に政治的範疇の交流が求められ、会の運営にもその必要性が高まっています。

日本作業療法士協会中村協会長や理事も国の法制度整備のための委員会に参加し、協会、またリハビリテーション専門職団体としても多くの陳情、データ提出を行い作業療法発展の為に頑張っています。

その多くの活動により我々作業療法士の社会的な地位は保たれ、職域としても広がりを見せているのです。

誰かが用意したお膳を当たり前のように戴き、なるように任せていく職能団体は必ず衰退します。我々一人一人の大切な責務は目の前の臨床（患者様）に向き合い、そのデータを積み上げ（エビデンスの構築）可能性（アート）を示唆することです。そしてそれを元に職能団体として作業療法の必要性を見せ、説き、広めることが重要なのです。

最近では県庁訪問や令和元年に行われた第1回新潟県リハビリテーション合同学術大会における花角県知事、岩村元県議会議長の招致や、斉藤ひろあき衆議院議員との情報交換会など多くの活動を行っています。また、訪庁し多様な幹部と意見交換する中で特別支援学校校長会出席や教育長等の意見交換が実現しました。作業療法士会の認知度が進むにしたい、建築士会との意見交換や新潟県災害福祉広域ネットワーク協議会の参画が早急に決まるなど多くの団体と協議、協業することが可能になっています。

最後に、社会の中で・働く中で、信仰と政治の話は敬遠されますが、団体としてどういう活動を主としているのか目と耳を澄ませてください。「政治活動」と「選挙活動」は違います。公益社団法人として「どなたかを応援します」は問題ありません。しかし、公示日を過ぎると公益法人としての言動には注意が必要です。いろいろ制限や制約がある中でより多くの情報を取得できるのは、より多くの場に向いている会長である四方が果たす責任は大きいと心得ています。ですので、平等性を持って冷静に判断し、少しでも多くの情報を理事会で共有し職能団体としての判断をし、会員の皆様に情報提供を行いたいと思います。

本来、新潟県作業療法士連盟の存在が業務分担、役割分担においてスッキリすることもわかってきましたので、これからの新たな動きにも注視していただきご指導・ご助言も合わせて会員の皆様よりご協力をいただきたいと思います。宜しくお願い致します。

身近なもので爪を切るための工夫

悠遊健康村病院 作業療法士 榎 本 康 佑

今回は、指先に力が入りにくい方が爪を切る方法を身近にある道具を用いて行う方法を紹介します。

新型コロナウイルスが流行している現在、衛生面は我々が気にしている事の1つとなっています。特に手洗い・うがい・マスクの着用は簡単にできる標準予防対策です。中でも手洗いは食事前や帰宅時等に行う頻度の多い行為です。手指の衛生を保つという面で、洗い方と合わせて気にかけていたことが爪の長さです。爪が長くなっていると洗い残しとなり、不衛生な状態に陥ってしまうことが予想されます。爪を適宜切る事が望ましいです。中には病気や事故等の後遺症により片手で爪を切らなければならない方や指先に力が入りにくく切ることが難しい方がいらっしゃるかもしれません。

今回紹介する方法は、身近な道具を活用した方法です。用意するものは市販の爪切り、滑り止めマット、穴あけパンチです。方法としては以下の写真を参考にして下さい。この方法により麻痺があり手指で爪切りを持てない方が爪を切れることがあります。掌や手首のあたりで押す事で切ることが可能です。

<使用機器>



<使用時の様子>



欠点として、穴あけパンチを掌で押せる力が必要であり完全麻痺等であると今回紹介した方法は適応されない場合があります。また、慣れるまでに多少の時間を要すかもしれません。

今回紹介した方法は、爪を切る為の方法の一部です。他にも電動の爪切り等市販のもので爪を切る道具も存在します。その方々に合った爪切りの方法を見つけましょう。

短く切られた爪で手洗いを行い、手指の清潔を保つことで新型コロナウイルス対策に繋げて頂ければと思います。

施設紹介のページ



介護老人保健施設 五頭の里

荒 木 宏 治

当施設は、新潟県内で初の介護老人保健施設（以下、老健）として昭和63年に開設しました。周囲には五頭連峰や瓢湖があり自然に恵まれています。平成22年に阿賀野市から新潟県厚生連が指定管理者制度を受け、水原郷病院（現あがの市民病院）と併設の老健の運営を開始しました。入所定員は50名で、短期入所は空きベッドを利用しています。通所リハビリテーション定員は10名で阿賀野市在住の方がご利用されています。

リハビリ職員は理学療法士1名、作業療法士1名が勤務しています。阿賀野市には老健が2施設しかないため、地域のリハビリテーションのニーズを担うため日々努力しております。

コロナ禍となり、施設内でのリハビリテーションの提供方法について、個別練習や集団活動に感染症対策を念頭においた作業種目の選定など、出来る対策を工夫しています。今年度は介護報酬改定もあり、LIFEシステムへのデータ提供に取り組んでいます。介護保険制度の中で老健の在り方も変化していると感じており、自分の役割を意識するようにしています。

入所・通所定員ともに少ない施設ですが、その分利用者様一人ひとりに丁寧に関われるよう、今後も心掛けていきたいと思えます。



介護老人保健施設 白根ヴィラガーデン

増 山 達 亮

白根ヴィラガーデンは新潟市南区にある介護老人保健施設です。「きれいで親切で心なごむ老健施設」をテーマに平成16年4月に開設しました。国道8号線に面しており、北方は新潟の街並みと接し、西南東には日本一の米どころ新潟平野が広がっています。開設時は老健施設として県下では初めてのユニットケアの導入やパワーリハビリを含む各種リハビリ機器の充実などから各方面から注目を集めていたそうです。

現在リハビリテーション科はPT6名、OT1名、ST1名が在籍しています。私自身は今の法人に勤めて9年になりますが、日々の臨床での出来事や私生活の事を含めた相談事を他職種の職員にも気軽に話し合える雰囲気の良い職場環境となっています。

OTは個別リハビリの他に季節の貼り絵や塗り絵、歌謡曲や昭和歌謡を用いたうた会の開催も行っています。最近は新型コロナウイルスの影響もあり、集団での歌唱が困難となってしまったので、集団レクリエーションの実施などを行って工夫しています。作業療法を提供している中で利用者様の他者交流や役割を獲得するなど普段見ることができない新たな一面を発見することもあり、とても勉強になります。

今後も利用者様やご家族様のニーズに応えていけるように職員一同頑張っていきたいと思えます。



令和3年度 第2回理事会 議事録

日 時：令和3年6月13日（日）13：00～16：20

会 場：新潟県作業療法士会 事務局(Web併用開催)

会場出席者：四方、吉井、山倉（以上理事3名）

Web出席者：石井、菊入、村山、一ノ本、能村、伊東、
尾崎、貝淵、門脇、北上、小山、佐藤、
渋谷、松岡（以上理事14名） 横田（以
上監事1名） 山中（記録）

欠席者：山田（以上理事1名） 水越（以上監事1名）

I. 報告事項

1. 会長報告（四方会長）

1) 循環器病対策推進計画の策定に向けた意見交換会 （6月4日）

今年度、新たに県から依頼された事業であり、リハビリテーション専門職協議会会長として出席。循環器病に対する短期的・長期的な計画を立案するにあたり、リハビリテーション専門職の取り組みを知りたいということで、意見交換および情報提供を行った。

2) 第1回47委員会（6月12日）

中村協会長より、協会の組織改編の説明。協会理事が部局を担当せず新たに部局長（OTとは限らない）その下に各委員会の配置を検討中。OTの質の低下、資質向上について生涯教育の新システムの大枠を今年度中に提示へ。協会員＝士会員の実現に向けて会費を同時納入できるシステムを検討。令和4年度までに定款、規則改定できるよう進めていく。名誉会員規定については一旦保留。各士会の研修参加申込方法（イベントペイ）、オンライン会議および情報共有方法（Microsoft Teams）を紹介、次年度以降、研修会参加費を徴収する場合の参考にした。Web研修会や会議について、有用な反面、専門職としてのコミュニケーション能力の必要性、コロナ終息後の対面開催の意義を理解してもらう必要あり。

3) その他

4月より新潟県リハビリテーション専門職協議会の会長に就任。

6月20日（日）に村山副会長と共に、さいとう洋明衆議院議員 議席奪取の会に出席予定。

2. 理事報告（必要事項のみ抜粋して記載）

1) 現職者共通研修委員会（菊入副会長）

委員長が早川竜生（国立病院機構新潟病院）に交代。

2) MTDLP委員会（石井副会長）

委員長が山中智恵（介護老人保健施設 三川しんあい園）に交代。基礎研修会を30名→50名に増員へ。

3) スキルアップ研修委員会（石井副会長）

第1回目のシーティング研修では、車椅子10台を

（株）フロンティアより借用する予定。

4) 公開講座企画実行委員会（松岡理事）

1回の定員を80名（×3回開催）計240名程の定員を想定し、開催を予定している。

5) 特別支援教育委員会（伊東理事）

児童福祉領域で働くOTが増えている中、医療施設と福祉型施設を繋ぐことが必要。学校訪問モデル事業は3年目に入り、認知度は高まっている。これからも学校訪問を通じ、作業療法士の必要性を感じてもらえるよう派遣を継続していく。（四方会長）

6) 福祉用具対策委員会（小山理事）

第1回研修会は再度日程調整を行う。

7) 精神分野推進委員会（門脇理事）

活動報告書に記載されている内容以外に、精神科領域の臨床実習指導者の実数を把握していきたい。

8) 地域包括ケア支援専門職協議会（村山副会長）

各市町村の規程に基づき交通費等支弁しているが、遠方場合はWeb参加等を提案へ。

9) リハビリテーション専門職協議会（四方会長）

佐藤成登志会長が退任され、4月より会長に就任。

10) 表彰委員会（山倉理事）

表彰対象者の選出については、事務員にも協力を仰ぎたい。副賞は代替品を検討する。

11) 福利厚生委員会（石井副会長）

委員長が山崎裕美（田宮病院）に交代。交流会は、現状で申込者が8名。

12) 総会議事運営委員会（山倉理事）

今年度より参加申込はGoogleフォームにて行った。委任状の提出数も多く円滑に総会を運営できた。

13) 訪問リハビリテーション・地域リーダー会議（石井副会長）

会長代理として出席。昨年度まで実務者研修会を3士会合同で開催も、必ずしも合同開催の必要はない。研修時間は例年5時間だが、4時間でも修了証発行。

<その他報告事項>

1) 尾崎理事

4月17日に新潟福祉まちづくり研修会に参加建築士との協業希望。

2) 佐藤理事

生涯教育オリエンテーション開催のための委員会議開催。現段階で25名の参加申込。

3) 石井副会長

理事・委員長に対してLINEの友達登録を依頼した。

4) 松岡理事

7月の朱鷺で令和3年度介護報酬改定の概要を報告。今後アンケート調査予定。茶の間は中央区、南区（建物老朽化による）が外れ7区7ヶ所が稼働も江南区は現段階では派遣の見通しが立っていない。

5) 門脇理事

Googleフォームの無料版は、自動返信メールの数に上限あり。大規模な学術大会では有料版の取得が必要か。➡次年度以降、有料のシステム導入検討。

3. 事務局報告 (吉井事務局長)

- 1) 協会からはコロナ関係の連絡が多い。
- 2) 科学的介護情報システム (LIFE) 説明会には保険委員会から理事・委員長が参加予定である。
- 3) 知事表彰候補者の推薦依頼➡該当者なし
- 4) 6月定期便に同封予定の生涯教育オリエンテーション等の案内について、発送までに間に合わず対象者36名に個別に案内を郵送した。
- 5) 新潟県・新潟市難病相談支援センター協力申請について、過去に承諾済みの団体のため、規程により会長判断で、5月26日「承諾」と回答。

II. 協議事項

1. 会員管理について (吉井事務局長)

会員管理: (令和3年6月13日時点)

入会者: 20名/退会者: 2名 ➡ 承認
承認後正会員数: 1,054名 (内、休会者数: 26名)

2. 令和3年度補正予算について (吉井事務局長/財務部長)

1) 学会運営委員会 (能村理事)

【支出】 (前) 568,000円 ➡ (後) 628,310円

会場を新潟医療福祉大学からユニゾンプラザへ変更の必要あり60,310円を追加計上。 ➡ 承認

2) スキルアップ研修委員会 (石井副会長)

【事業内容の変更】 第2回研修会はWeb研修で計画していたが、対面形式での実技研修に変更したい。集合型研修開催について意見をもらいたい。

【支出】 (前) 364,240円 ➡ (後) 441,000円
賃借料 (新潟ユニゾンプラザ)、交通費、諸謝金等

(1) 集合型研修会開催について

- ・ハイブリッド形式の参加方法も検討。(村山副会長)
- ・実技場面について、ビデオで撮影 (iPhoneでも可)、Bluetooth接続のマイクがあると良い。(渋谷理事)
- ・研修内容に「食事」とあるが感染リスクが高いのではないかと。(佐藤理事) ➡ 「食事動作」の内容が主で実際の「摂食・嚥下」は含まない。(石井副会長)
- ・集合型で実技を行う場合、同グループになる参加者を居住地等で分けが必要ではないかと。(四方会長)

(2) 感染予防対策について

- ・他県士会や他団体の実技研修における感染対策を情報収集したら良いのでは。(門脇理事)
- ・参加する会員にとっても、根拠や基準が提示されていた方が安心できると思われる。(能村理事)
- ・研修会を運営するにあたり「参加者の自己責任で完結する」ことなく、士会としての指針や内規を定め、議論を深める必要あり。(横田監事)
➡現在のところ、当士会は研修会開催における明確な規則がない。危機管理ステージ表

(案)を吉井事務局長が作成したうえで、臨時理事会を開催し引き続き協議。 ➡ 継続審議のため補正予算も保留

3. 新潟県リハビリテーション専門職学会大会コアメンバー選出について (四方会長)

1) 日時: 令和4年12月10日 (土) 11日 (日)

2) 会場: 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

3) コアメンバーについて:

- (1) 大会長: 四方秀人
- (2) 副大会長: 佐藤ST士会長 (次期ST士会が主管)
- (3) 運営実行委員長: 未決定 (当初案では能村理事)
- (4) 運営実行副委員長: 門脇高、平澤利博 (学会運営委員長)
- (5) 実行委員: OT学会運営委員、PT・ST実行委員
- (6) 渉外担当責任者: 村山拓也
- (7) 事務局・会計: 吉井真里、山倉宏美
- (8) 機器展示・書籍販売: 小山智彦
- (9) 特別講演講師担当: 渋谷亮仁
- (10) OT専門教育関連事項: 菊入恵一
- (11) 懇親会担当責任者: 石井登
- (12) 広報記録担当責任者: 尾崎生

4) 運営実行委員長の選出について

・運営実行委員長は能村理事と記載されていたが次年度難しくなり再選出へ。

以上、「上記概要 (運営実行委員長以外) で、新潟県リハビリテーション専門職学会大会を進めていく」

➡ 承認 (運営実行委員長選出は持ち越し審議)

4. その他

1) 「ナマラSmileランチ」寄付金募集 (四方会長)

30周年記念事業の際に講演依頼をしたNAMARA (代表: 江口渉氏) より、コロナ禍における一人親家庭を支援する取り組みで、当士会に寄付金 (一口: 2,000円〜) の依頼あり。寄付に関する依頼は規程がなくその都度検討している。

➡これまでの災害発生時に寄付金をお渡しした経緯はあるが金額の規程はない。(四方会長)

・今後はクラウドファンディングなど寄付の依頼が増えるのではないかと。(北上理事)

・公益社団法人は寄付金が認められている。寄付という活動が公益法人として、社会貢献や社会的役割として妥当かどうか議論すべき。事業計画にも掲載した方がよい。(横田監事)

・「5口: 10,000円として寄付」 ➡ 承認

2) 次回理事会について (四方会長)

9月4日 (土) 業務執行理事会/第3回理事会を予定していたが、第2回47委員会、関東甲信越ブロック理学療法士学会と日程が重なったため、日程を9月25日 (土)、場所は新潟ユニゾンプラザ (ハイブリッド開催) に変更。スキルアップ研修会開催のための感染対策および危機管理ステージ表についての臨時理事会を6月末〜7月上旬Webにて開催。

以上

令和3年度 第5回理事会 議事録

日 時：令和3年9月25日（土）13：00～16：30

会 場：新潟ユニゾンプラザ 中研修室（Web併用）

会場出席者：四方、石井、山倉（以上理事3名）

山中（記録）

Web出席者：菊入、吉井、伊東、尾崎、小山、佐藤、

松岡、山田（以上理事8名）

水越、横田（以上監事2名）

欠席者：村山、一ノ本、能村、門脇、北上、渋谷（以上理事6名）

I. 報告事項

1. 会長報告（四方会長）

1) 7月29日（木）晴陵リハビリテーション学院：五十嵐事務長に挨拶に伺う。臨床実習指導者講習会について意見交換、晴陵リハビリテーション学院を会場とする場合の会場費は無料という返答を頂いた。

2) 8月17日（火）新潟県災害福祉広域ネットワーク協議会に加入するための会議に出席。代議員へ登録（四方会長）、今後POS協議会で幹事1名を推薦する。会員宛にチーム員の募集案内を配布予定。

3) 9月4日（土）関東甲信越ブロックPT学会開会式に出席。同日予定の50周年記念式典・祝賀会は、県内に特別警報発令中のため延期。

4) 第2回新潟県リハビリテーション専門職学会大会開催のための準備委員会を開催。（報告書未）
令和4年12月10日（土）11日（日）、会場は朱鷺メッセにてハイブリッド学会大会を企画。特別講演講師として、吉藤健太郎氏（オリイ研究所）には内諾を頂いている。

5) 8月末日で貝淵正人理事が退任された。（県には必要届を提出済）災害対策委員会は、四方会長が担当。

6) 6月20日（日）村山副会長とともに、斎藤洋明議員（議席）奪取の会に出席。その後、斎藤議員より当士会からの「推薦状」をいただきたいと話を受けた。公益法人として特定の議員を応援することには問題はない。横田剛氏と話を進めながら早々に新潟県作業療法士連盟を立ち上げ、動き出す必要があることを再確認し、前進するよう協議を重ねる。

「新潟県作業療法士会として、斎藤洋明議員を支援する推薦状を書く」で承認をとる。⇒承認

➡ 会員に対して、これまでの活動の経緯を含め「新潟県作業療法士会として、日本リハビリテーション議員連盟に所属する斎藤洋明議員を応援する」ことを周知すべきでは。（水越監事、横田監事）

➡ 四方会長が上記内容について原稿を作成し、朱鷺に内容を掲載することで会員への周知を図る。

2. 理事報告（必要事項のみ抜粋して記載）

1) 第2回47委員会（菊入副会長、石井副会長）

中村協会長より協会の役割について説明、診療・介護報酬で職名が記載されているものには、すべて協会が関与していることを認識してもらいたいと話があった。制度化されている加算の実績を残せないと制度からはずされる可能性があるため、会員への周知をして欲しい。訪問看護ステーションの人員配置（看護師6割以上）についても13万筆以上の署名を集めて回避することができた。また、中村協会長がチーム医療の委員となったため、中医協での発言が可能になった。

(1) 倫理委員会でガイドラインを作成。各士会が把握している刑事罰、ハラスメントに相当する事例は協会に報告すること。今後、各士会の倫理担当者向けの研修会を予定。

(2) 組織率について、40～50代は85%超に対し、20～30代は57%となっている。今後退職者（退会者）増加につれ組織率がさらに低下する予測。

(3) 11月中旬「協会員＝士会員実現のための検討委員会」が開催。（吉井事務局長出席予定）

(4) 各士会における「広報の普及啓発に関する意見交換会」が開催される。（尾崎理事出席予定）

(5) 11月28日（日）災害に関する研修会を予定、斎藤委員長に参加を依頼。

2) 現職者選択研修委員会（菊入副会長）

12月19日（日）開催、身体障害領域の作業療法について講師4名が決定。

3) 生涯教育委員会（佐藤理事）

6月27日（日）新入会員を対象に生涯教育オリエンテーションを開催。士会裁量ポイントの申請者が少ないため、継続検討とする。

4) 生活行為向上マネジメント委員会（石井副会長）

7月18日（日）基礎研修会を開催。新年度早期の開催のため、会費未納者には電話にて納入を促した。

5) スキルアップ研修委員会（石井副会長）

9月19日（日）第1回研修会（シーティングについて）開催。集合型研修を企画も、Zoom開催となり、新潟県リハビリテーション病院にて事前撮影を行った。90名程の申込みあるも委員が対応可能な人数として70名とした。

6) 地域包括ケア推進委員会（茶の間）（松岡理事）

コロナ禍で区によって差が生じている。支部長を通じて状況を確認、必要時は新潟市と協議。特別警報発令中の2週間は派遣中止。今年度も東区の周年式典には出席、お花の贈呈を予定。

7) 特別支援教育委員会（伊東理事）

学童保育職員対象の研修会に講師として出席、情報収集と学童保育の現場見学を行い、勉強会へのOT参加を期待されている。

8) 福祉用具対策委員会（小山理事）

8月29日（日）東部ブロック会議に出席。生活行為工夫情報事業に名称改め、関連する研修の標準パッケージを作成予定。

9) 精神分野推進委員会（菊入副会長）

8月29日(日)情報共有会を開催し、15施設程からの参加。SIG申請し、オンデマンド研修を企画。

10) 保険委員会(松岡理事)

6月26日(土) LIFE説明会に内山委員長が出席。今後アンケート実施予定。

11) 新潟県リハビリテーション専門職協議会(四方会長)

支援交付金にてチラシ(ポスター)を作成した。

12) 福利厚生委員会(石井副会長)

6月27日(日)新人交流会を行った。18名と昨年度よりも参加者が多く、若い会員はZoomの方が気軽に参加できるという意見があった。

13) 事務局(吉井事務局長)

事務局の雨漏りありエアコンを撤去。協会からの倫理問題事案に関するアンケート調査に回答。

14) 財務部(吉井財務部長)

6月～8月分の会計・財務作業報告。8月末日時点の執行率で公益事業が20%未満と良くない状況。

15) 総会議事運営委員会(山倉理事)

6月13日(日)令和3年度定期総会を開催、次年度定期総会は令和4年6月12日(日)、集合型で会場手配。

<その他報告事項>

1) 尾崎理事

12月定期便にて広報誌(朱鷺)を送付予定。前号にて今年度の表彰対象者1名の名前に誤りがあり謝罪。次年度以降はフォーマットを作成し対象者から直接入力してもらうことで再発を予防する。

2) 佐藤理事

生涯教育手帳移行の問い合わせ増。移行期限が9月末日なので、早めに対応して欲しい。

3) 吉井事務局長/財務部長

今年度予定している事業内容は、2月末日ですべて終了するように各委員会に対応して欲しい。

3. 事務局報告(吉井事務局長)

9月1日、令和3年度休会者(26名)宛に次年度の休会延長もしくは退会する手続きを取らない限りは自動復会となる旨の案内を発送した。

9月14日、新潟県骨粗鬆症サポーター研修会の新規の後援依頼あり、規程第5条1項(2)に該当するため全理事にメール配信し採決、承諾とした。

II. 協議事項

1. 会員管理について(吉井事務局長)

会員管理について(令和3年9月25日時点)

入会者:19名/退会者:1名 ⇒ 承認

承認後正会員数:1,072名(内、休会者数:26名)

研修会申し込み時、資格喪失し使用できない番号の届け出あり。受け付け時は要注意。(吉井事務局長)

2. 補正予算について(吉井事務局長/財務部長)

1) 事務局(吉井事務局長)

【支出】(補正前)4,487,996円→(補正後)4,516,196円
最低賃金の改定で令和3年10月より新潟県の最低賃金が28円引き上げられ859円になる。

事務局員2名とも現在の給料から30円引き上げた場合(酒井原さん:900円、堀口さん:880円)令和3年10月～3月の給料手当を28,200円追加として計上。最低賃金に変更がない限り、3～4年据え置き。
⇒ 承認

3. 障害福祉対策委員会が昨年度実施した調査報告書(詳細版)の県士会HP掲載について(四方会長)

障害福祉対策委員会が実施した調査報告書(2編)を学術誌投稿について、当初の事業計画にないため県士会HPへの掲載対応とする。現在の簡易版から、詳細版へ差し替える。 ⇒ 承認

4. 令和4年度新潟県作業療法士会事業計画案について(四方会長)

令和4年度事業計画骨子について説明、基本方針および予算案を提出。Zoom研修は参加する会員の裾野も広がり、集合型では得られなかった効果も感じている。今後、集合型での研修開催が可能であっても、Zoomは活用していきたい。次年度はハイブリッド型で企画・開催、研修会を録画してオンデマンド配信の推進、SNSを活用した会員への情報発信、連携を目指す。

1) 研修会参加費入金システムについて

次年度以降は研修会参加費(1,000円)を徴収する予定であり、村山副会長に入金システムについての調査を依頼した。その情報をもとに、各委員会が予算編成をする際の参考にする。

2) 学校訪問事業の謝金について

モデル事業の終了に伴い、次年度以降は依頼先から謝金をいただく予定としていた。学校側が「謝金を支払ってでも作業療法士を活用したい」と感じるかどうかにもよるが、県士会費から派遣施設側への謝金支給なども視野に入れて検討。現状では、会員の所属施設によって①謝金の取り扱い方、②出張として会員派遣/個人の年休で訪問など、状況が様々。3年間の派遣実績をもとに、情報を整理して今後の方向性を決定していく。また、PT士会・ST士会との整合性もあるため、リハビリテーション専門職協議会および県の担当者とも協議していく予定。

3) 令和4年度事業計画・予算案提出について

次年度事業計画・予算案については、12月10日(金)までに提出すること。

以上

SAKAimed

急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel: 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
新潟営業所 TEL 025-284-6866

各種車椅子・座位保持装置・ベッド
・コミュニケーションエイド・福祉機器
・介護用品・介護保険レンタル・住宅改修

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017
新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
http://www.gtb-niigata.jp/

義肢・装具・介護レンタル
ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号

(株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11
TEL 025 281-0303
FAX 025 281-0339

PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー
リハノメ

どこでも学べる 日本最大の講師数
定額見放題 オフライン再生

法人様向け
プランのご用意も
しております

資料請求
好評受付中

リハノメHP
からご請求
頂けます

リハビリテーションを
『かたち』にする会社

gene

お問合わせ
はこちら

1ヶ月見放題プラン
通常料金 3,080円が
初回
限定
980円

※表記価格は税込み料金です。

キャリア
決済対応!

OT向け
セミナー
続々配信

豪華講師陣をご紹介します

佐藤 彰 先生
作業療法士 / 目白大学保健医療学部
作業療法学科 准教授

山本 伸一 先生
作業療法士 / 山梨リハビリテーション病院
リハビリテーション部 副部長
兼作業療法課長

お申込はこちらから▶

seminar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611

リハノメ 検索

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No.17 2021年11月30日発行

発行責任者：四 方 秀 人

編集責任者：尾 崎 生

発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社 タ カ ヨ シ

第17回新潟県作業療法学会 一般演題優秀演題

優秀演題＜学会長賞＞

関 悟 氏（魚沼基幹病院）

演題：背部外傷患者の離床支援

～スライディングシートの特性を活かして～

選考理由：背部外傷患者に対するスライディングシートの活用によって離床時の疼痛緩和が認められた実践報告であり、今後の研究発展が期待される。

受賞者からのコメント：

この度は、学会長賞を頂戴し大変光栄に思います。新潟県作業療法学会におかれましても、オンラインにて運営および開催いただいたことに感謝申し上げます。

今回、背部外傷に対するスライディングシートの活用について発表しましたが、誰でも簡単に臨床で真似がしやすいことを意識しました。発表を聞いていただいた皆様にとって、臨床で役に立つ内容であったならば嬉しく思います。

余談になりますが、過去の私は学会等で発表することに対してあまり前向きではありませんでした。しかし、前職（県外）から新潟県南魚沼市に戻り、作業療法士として働く中で出会った恩師や同僚の姿に触れたことで変化がありました。井の中の蛙大海を知らずということわざの通りで、「一步踏み出す」きっかけになったのも、この新潟県作業療法学会でした。

今後も、日々の臨床を通じて作業療法と真摯に向き合っていきたいと思います。



優秀演題＜奨励賞＞

松本 隆宏 氏（田宮病院）

演題：作業機能障害の評価・介入を行い、
新たな価値を見出した事例

選考理由：急性期精神科患者に対する介入によって作業機能障害に変化が認められた実践報告であり、急性期の精神科作業療法において意義がある。

受賞者からのコメント：

今年の4月に行われた職場での院内発表を行ったことをきっかけに、今回の学会へのエントリーに至りました。

抄録やスライドを作成している中で、急性期の精神科作業療法における課題を知らなかったり、症例の言動から4種類の作業機能障害を正確に解釈できていなかったりと、院内発表では足りていないことばかりで早い段階で自信を無くしていました。ですが、職場の先輩方が時間を割いて指導・助言をしてくださり、自分の考えと統合しながら抄録とスライドの修正を繰り返し、学会当日に臨むことができました。今回、優秀演題賞を受賞したという連絡を頂いた直後はとても驚きましたが、徐々に実感できるようになり、私にとって大きな自信となりました。

発表まで指導・助言をしてくださった職場の皆様、そしてコロナ禍の中で今回学会を運営してくださった役員の皆様、ありがとうございました。

